

平成26年度第1回「墨田区子ども・子育て会議」・ 「墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会」議事要旨

日時：平成26年4月15日（火）午後6時30分～8時30分
会場：区役所131会議室

次 第

1 開会

2 議題

議 題	資料No.
(1) 平成26年度の委員について	資料1
(2) 平成26年度の主なスケジュールについて	資料2
(3) 教育・保育に係る量の見込みについて	資料3 資料4
(4) 各ワーキンググループの進捗状況について (i) 放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準案について (ii) 乳幼児WGの今後の進め方に関する報告について	資料5
(5) その他 ・内閣府による地方版「子ども・子育て会議」の取組事例に関する調査報告について	資料6

3 次回開催予定

日 時：平成26年5月26日（月）午後6時30分～8時30分
会 場：すみだリバーサイドホール（イベントホール）
主な議題：事業確保策の検討、各種基準案の検討 ほか

4 閉会

配布資料

資料1	平成26年度「墨田区子ども・子育て会議」及び「墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会」委員名簿
資料2	平成26年 子ども・子育て会議 スケジュール
資料3	都へ提出した量の見込みワークシート
資料4	墨田区子ども・子育て支援ニーズ調査 実績値と量の見込み
資料5	放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準案
資料6	地方版「子ども・子育て会議」の取組事例に関する調査報告書（抜粋）

出席者(敬称略)

○委員

大豆生田 啓友（玉川大学教育学部乳幼児発達学科教授）
野原 健治（興望館館長）
高嶋 景子（田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科准教授）
長田 朋久（横川さくら保育園長）
鈴木 寛子（あさひ幼稚園副園長）
西島 由美（にしじま小児科院長）
服部 榮（社会福祉法人 雲柱社理事長）
財津 亜紀子（文花子育てひろば施設長）
野口 悦子（主任児童委員）
内田 淳（青少年委員協議会委員）
森 八一（青少年育成委員会連絡協議会副会長）
小菅 崇行（小菅株式会社代表取締役会長）
金子 里美（NTT 労働組合東京総支部執行委員）
佐藤 まり子（ムーミン保育室施設長）
賀川 祐二（NPO 法人 病児保育を作る会代表理事）
貞松 成（株式会社 global bridge 代表取締役）
佐藤 摩耶子（公募）
荘司 美幸（公募）
多胡 晴子（公募）
徳野 奈穂子（公募）
福田 三加代（公募）
荒木 尚子（緑幼稚園長）
須藤 太郎（八広小学校長）
青塚 史子（太平保育園長）

<欠席委員>

工藤 和俊（小学校 PTA 協議会会長）
早川 和宏（中学校 PTA 連合会会長）
本多 美絵子（両国幼稚園副園長）
菊本 和仁（桜堤中学校長）

<傍聴>

3名（男性1名、女性2名）

○部課長出席者

石井 秀和（教育委員会事務局次長）、大滝 信一（福祉保健部長）、中橋 猛（保健衛生担当部長）、
関口 芳正（子ども・子育て支援担当部長）、小倉 孝弘（子育て支援課長）、鈴木 一郎（子ども課

長)、村田 里美 (子育て支援総合センター館長)、

○事務局出席者(プロジェクトチーム含む)

浦辺、井場、田村、遠藤、高尾、松本、酒井 (以上、子育て支援課)

杉崎、長山、柿畑、坂田、高橋、杉田、水野、田邊、藤井、黒岩、澄田 (以上、子ども課)

梅原 (子育て支援総合センター)

○事務局(株)地域総合計画研究所)

森井・大鹿・佐々木

1 開会

会長	これより開催する。
事務局	<p>委員の出席状況について、現在の時点で委員 28 名のうち 17 名が出席し、定足数を満たしているので会議は有効に成立している。傍聴者の出席、記録用の写真撮影と録音を了承願いたい。</p> <p>1月17日の第4回の議事録を委員に送付し、その後に若干修正したものを最終版とする。会議資料におけるインタビュー資料では、「一部事実と異なる内容もございますが、インタビュー対象者の発言のまま掲載しています」と記載してホームページに掲載する。3月5日の第5回の議事録については、特段、意見がなかったために確定とする。</p> <p>前回の会議以降の活動状況について、3月17日(月)午後6時30分から、興望館にて学齢ワーキンググループ(以下、WG)の事前打ち合わせを行い、今後の検討課題を確認し、学童クラブの現況を事務局から説明して意見交換を行った。また、3月27日(木)午後6時30分からすみだリバーサイドにて新制度に関する事業者向け説明会を行い、110名の参加があった。また、4月7日(月)午後6時30分から、興望館にて学齢WGを開催し、放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準案について検討を行った。さらに、4月10日(木)午後6時30分から企画会を開催し、本日の会議の打ち合わせを行った。</p>

2 議題

(1)平成26年度の委員について

事務局	<p>(資料1を説明)</p> <p>人事異動に伴い、3名から平成26年3月末日付けで辞任届が提出された。後任は、荒木委員、須藤委員、菊本委員となる。</p> <p>(区人事異動に伴う新任職員の紹介)</p> <p>(各種基準や利用料などを検討するプロジェクトチームの紹介)</p> <p>(区組織改正による子育て支援課と子ども課の案内)</p> <p>(コンサルの紹介)</p>
会長	<p>意見はあるか。</p> <p>(意見なし)</p>

(2)平成26年度の主なスケジュールについて

事務局	(資料 2 を説明) (4 段階に区切ったステップ、今年度の会議の開催回数、WG で議論する内容、議会への 条例と計画の提示時期、シンポジウム・意見交換会・パブリックコメントの実施、最終 的な計画策定の時期を説明)
会長	意見はあるか。 (意見なし)

(3)教育・保育に係る量の見込みについて

事務局 地域研	(資料 3・4 を説明) (都へ報告した資料 3、資料 3 をまとめた資料 4 の見方と数値を説明)
会長	実績と量の見込みを比較すると、量の見込みの方が増えているが、どのように見ればよい のか。
事務局	判別は難しいが、料金等を気にせずに利用するとした回答と、空きがあれば利用したいと する潜在的な需要の回答があったと推測されるが、量の見込みは、そうした区民の意向を直 に反映させた結果である。 また、他自治体との意見交換においても、実績より量の見込みが多く出ている傾向にあり、 墨田区だけの特徴というわけではない。 本来は事前に配布すべき資料であったが、後日でも構わないので、事務局へ意見を寄せて いただきたい。
委員	墨田区より十分なサービス提供をしている区があれば、墨田区内で最大限にサービスを提 供した場合の参考にできるため、近隣の自治体の実績を資料として提供することはできる か。
事務局	各区の子ども・子育て会議で公表している数値は提供できるが、非公開の場合は難しい。 実際に、インターネット上で既に公開されているところもあれば、検討中として公表してい ない区もある。なお、墨田区の保育施設の利用率は 40 数%で 23 区で第 2 位である。
会長	墨田区はこの資料を公表するのか。
事務局	会議の議事録を委員に送付した際、特段、問題がなければ速やかにホームページに掲載す る予定でいる。
委員	民間の場合、各自治体のホームページ上の情報だけではなく、事務事業評価や行政評価、 運営団体の報告書などに目を通して、数字を把握する作業を行っている。そのため、近隣の 区について調べる必要があり、実際のサービス提供量を見た方が現実的な数字を導き出せる と考えている。
事務局	どこまで提供できるか分からないが、参考となる資料は提供したい。
委員	なぜ地域子育て支援拠点事業が実績と比べて減ったのか、ファミリー・サポートセンター で量の見込みがゼロとなっている理由は何か。

事務局 (地域研)	<p>要因は明確ではないが、調査対象者が地域子育て支援拠点事業の利用経験や認識がなかったため、利用すると回答された方が実際より少なかったことが予想される。</p> <p>ファミリー・サポートセンターについては、対象が就学児のみで、該当期における利用意向がなかったことを表している。なお、0～5歳児の量の見込みは8万余りで、一時預かりなどの多様なサービスで受けることとなるが、このファミリー・サポートセンターの扱いには考慮が必要となる。</p>
会長	<p>数字で表した場合、色々な読み取りが可能のため、ある種のリスクはある。ここには、コメントを入れて出す方がよいのではないか。また、この地域子育て支援拠点事業の量の数え方は、実績値と量の見込みで異なっていないか。</p>
事務局 (地域研)	<p>地域子育て支援拠点事業のカウントは、利用意向人数と利用意向日数を掛けているため、単位はそろっている。</p>
会長	<p>他に意見がないようであれば、この議題はここまでとし、意見や質問は事務局まで上げていただきたい。</p>
事務局	<p>次回の会議は5月26日の予定で、それまで乳幼児WGにて、今後にいただく意見も踏まえて検討をお願いし、その結果を次回会議で報告することよろしいか。</p>
会長	<p>長田委員、それでよろしいか。</p>
長田委員	<p>はい。</p>
会長	<p>では、乳幼児WGで検討していただき、さらに進んだ形で次回の会議に示されることとする。</p>

(4)各ワーキンググループの進捗状況について

(i)放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準案について

副会長	<p>学齢WGでは、学童クラブの職員数や定数などの基準案の検討と、ワークライフバランスや高学年以降の放課後の居場所、学童クラブの質など次世代育成行動計画の内容の検討となっている。</p> <p>まず、3月17日に集まり、WG部会長は服部委員、司会は野原と服部委員で行う、小委員会として分けずに1つのWGとして検討するとした。また、事務局から現状の資料を提出してもらい、服部委員からも資料を提供いただいた。</p> <p>その後、4月7日にWGを開催して検討が進められ、会議の運営面においては、事務局案をしっかりと提出してほしいとなった。本日示しているのは、学齢WGで賛成が得られた提案である。事務局から内容の説明を願いたい。</p>
事務局	<p>(資料5の説明)</p> <p>(学童クラブに関する各種基準の説明)</p>
委員	<p>ハードの面について、示された条件や基準は墨田区においてクリアしてほしいと考えている。学童クラブの質の確保については、現在の墨田区の取組で対応できている。保護者の多様なニーズや事業内容など、現場でどう対応して運営していくかというソフト部分も関係してくる。また、計画を策定した5年後の地域を考えれば、健全育成を総合的に捉えていく必要がある。</p>
会長	<p>提示された案について、意見や質問はあるか。</p>

委員	開所日数について、国は 250 日以上を原則としているが、過去に実績では数日間不足している。国は何を想定して 250 日とし、現場はなぜ数日間足りなかったのか。
事務局	祭日や年末年始に開所しておらず、若干足りていないが、夜間や土曜育成を行っており、それを入れると 250 日に近づくと考えている。 また、250 日の理由は、平日の授業日数に長期休暇日数を加えた日数となっている。
会長	実際には、国で示している原則の範囲内ということである。
委員	国の開所日数の基準は参酌すべき基準のため、240 日を原則とするとしても問題ないと思うが、それを国の基準に従うのはなぜか。
委員	250 日にするとしなくとも、適切な書き方でよいのではないか。
会長	委員の意見は、250 日に合わせるのではなく、見せ方を変えても良いとの意見である。
事務局	実際に広さにおいても「おおむね 1.65 m ² 」を満たしていないところも一部あるが、それは「おおむね」の範囲であり、開所日数についても国の参酌基準を検討して、条例を策定していきたい。参酌基準のため、240 日で決めていきたいとは考えている。
委員	4 月 7 日の学齢 WG において、平成 25 年度から土曜日も開所しており、開所日数が増えているとしていたのではないか。
事務局	ご指摘いただいたとおりで、平成 25 年度の開所日数は 293 日である。
会長	そのように表記してもらえれば問題なく、資料を修正していただきたい。 他に意見がないようなので、これらの提案を会として承認したものとする。

(4)各ワーキンググループの進捗状況について

(ii)乳幼児 WG の今後の進め方に関する報告について

委員	おおむねの目安として、7 月末まで 7 回くらいの WG を開かなければならないだろうと考えている。国からの政省令が遅れていて WG も動けない状況だったが、暫定的に示されている基準で検討を進めていきたいと考えている。 WG では、保育の必要量や各種基準などを一つひとつ落とし込んで進めていきたい。また、この会議終了後、乳幼児 WG の方々に集まっていただき、今後の日程を決めたい。
事務局	第 1 回の乳幼児 WG を、4 月 25 日(金)午後 6 時 30 分から、区役所 123 会議室で開催を予定している。
会長	それぞれの WG で検討項目がたくさんあるが、よろしく願いたい。

(5)その他

事務局	(資料 6 を説明)
会長	この資料は、インターネットからダウンロードできるか。
事務局	内閣府のホームページからダウンロードや印刷などができる。
会長	他に意見がなければ、次回開催について事務局より願いたい。
事務局	次回は、5 月 26 日(月)午後 6 時 30 分から、すみだリバーサイドホールのイベントホールで開催する。主な議題は、事業確保策の検討や各種基準案の検討についてとなる。
会長	本日はこれで会議を終了とする。

以上